InterSafe WebFilter Ver.9.1 SP4
バージョンアップ概要・注意事項



セキュリティ事業部ビジネス推進部

作成日 2026.10.29

アルプス システム インテグレーション株式会社
© Alps System Integration Co., Ltd. All rights reserved.

目次

はじめに
- 変更履歴

Chapter 1 必要条件
- 1-1.動作要件
- 1-2.製品別条件

Chapter 2 バージョンアップの流れ

Chapter 3 注意事項(作業前)
- 3-1.設定情報のバックアップ
- 3-2.keystoreファイルのバックアップ
- 3-3.ulimitの確認(LinuxOSのみ)
- 3-4.tomcatのポート確認
- 3-5.カスタマイズ規制画面ファイルのバックアップ
- 3-6.プライマリ・レプリカ構成でのバージョンアップ
- 3-7.Google Apps機能利用時のバージョンアップ
- 3-8.カレンダーファイル(cal.inf)のコンバート処理による設定情報の引継ぎ失敗について

© Alps System Integration Co., Ltd. All rights reserved.

目次

Chapter 4 バージョンアップ後の作業
- 4-1.データベースのダウンロード
- 4-2.最大ヒープサイズの設定
- 4-3.その他の作業

Chapter 5 注意事項(作業後)
- 5-1.HTTPS規制画面の動作変更
- 5-2.利用ポートの確認
- 5-3.認証局設定について
- 5-4.HTTPSタイムアウト値について
- 5-5.Ver.8.5 SP2以降のセキュリティ強化について
- 5-6.リクエスト別認証設定の削除
- 5-7.例外サービス設定の反映
- 5-8.ログファイル名の変更
- 5-9.サーバの呼称について
- 5-10. eMudhraの中間CA証明書対応におけるブラックリスト再設定のお願い

© Alps System Integration Co., Ltd. All rights reserved.

目次

Chapter 6 新機能について

- 6-1.AIカテゴリの追加

Chapter 7 ログレポートツール

© Alps System Integration Co., Ltd. All rights reserved.

はじめに

はじめに

本資料は、

InterSafe WebFilter Ver.9.1 SP4
(以下 ISWF)へのバージョンアップを前提とした内容となっております。

プログラムの入手方法についてはサポート窓口までお問い合わせください。

■サポート窓口
メール support@alsi.co.jp
お問い合わせフォーム https://alsifaq.dga.jp/form/support_form.html

また、不具合情報については、下記リンク(FAQ)をご参照ください。

InterSafe WebFilter 障害・不具合報告
https://alsifaq.dga.jp/faq_list.html?page=-1&category=38

© Alps System Integration Co., Ltd. All rights reserved.

変更履歴

日付	変更内容
2023/12/4	新規作成
2024/1/9	スライド13ページのLDAP連携対象サーバの記載を修正しました。
2026/10/29	■3-11.カレンダーファイル(cal.inf)のコンバート処理による設定情報の引継ぎ失敗について を追加
2026/10/29	■5-10. eMudhraの中間CA証明書対応におけるブラックリスト再設定のお願い を追加

© Alps System Integration Co., Ltd. All rights reserved.

Chapter 1 必要条件

1-1.動作要件

1-2.製品別条件

ISWFが動作するサーバについて

(前提)
InterSafe WebFilter Ver.9.1 SP3がインストールされていること

© Alps System Integration Co., Ltd. All rights reserved.

Windows版

[OS(64bit)]

・日本語版Microsoft Windows Server 2016 Standard

・日本語版Microsoft Windows Server 2019 Standard

・日本語版Microsoft Windows Server 2022 Standard(※)

※Ver.9.1 SP3インストール時は、専用インストーラ(Build1605)をご利用ください。

[CPU] OSの動作要件を満たすこと

[メモリ] 2GB以上

[ディスク容量] 1GB以上の空き領域(ログ使用領域を除く)

※ここに記載されていないエディションで不具合が生じた場合は、上記のシステム環境で再現した場合に対応します。

© Alps System Integration Co., Ltd. All rights reserved.

Linux版

[OS(64bit)]
・Red Hat Enterprise Linux 7
　Linux カーネル v 3.10.0および glibc v 2.17
・Red Hat Enterprise Linux 8
　Linux カーネル v 4.18.0および glibc v 2.28

[CPU] OSの動作要件を満たすこと

[メモリ] 2GB以上

[ディスク容量] 1GB以上の空き領域(ログ使用領域を除く)

© Alps System Integration Co., Ltd. All rights reserved.

仮想環境を使用する場合

ISWFが対応しているOSを、ゲストOS上で動作保証している仮想環境

※仮想環境固有の問題を除いては対応可能です。

ISWF for ICAPを使用する場合

[ICAP クライアント]
Blue Coat ProxySG SGOS 6.7,7.3
Squid 3.5、4.4、5.3、5.4、7.6
A10 Thunder CFW/SSLi ACOS 4.1～5.2
BIG-IP ver 15.1.3以降/SSL orchestrator ver 7.2以降

© Alps System Integration Co., Ltd. All rights reserved.

LDAP連携を行う場合

[LDAPサーバ]
・Active Directory:Windows Server 2016
・Active Directory:Windows Server 2019
・OpenLDAP 2.4.35
・Oracle Directory Server Enterprise Edition 11 g R2

※Windows Server 2016、Windows Server 2019ではActive Directory ドメインサービス(AD DS)が必要です。
Active Directoryライトウェイトディレクトリサービス(AD LDS)には対応していません。

※NTLM認証及びKerberos認証は
Windows Server 2016、Windows Server 2019が対応しています。

© Alps System Integration Co., Ltd. All rights reserved.

ISWFに接続するクライアント

[Windows]

[ブラウザ]
・Microsoft Edge Chromium版 (Microsoft)
・Firefox (Mozilla)
・Chrome (Google)

※NTLM認証を行う場合は、Microsoft Edge Chromium版 、Firefox 、Chrome の利用を推奨します。
※Kerberos認証を行う場合は、Microsoft Edge Chromium版の利用を推奨します。

[macOS]

[ブラウザ]
Safari

© Alps System Integration Co., Ltd. All rights reserved.

[Mac iOS/iPadOS]

[ブラウザ]
Safari

※Wi-fiプロキシにてWebFilterに接続した場合のHTTPおよびHTTPSプロトコルのみ対象

[Android]

[ブラウザ]
・ブラウザ(com.android.browser)
・Chrome for Android(com.android.chrome)

※Wi-fiプロキシにてWebFilterに接続した場合のHTTPおよびHTTPSプロトコルのみ対象

© Alps System Integration Co., Ltd. All rights reserved.

ISWFの管理画面操作に使用するクライアント

[Windows]

[ブラウザ]
・Google Chrome
・Microsoft Edge Chromium版

© Alps System Integration Co., Ltd. All rights reserved.

バージョンアップ時の条件について (Proxy版/ICAP版)

**InterSafe WebFilter Ver.9.1 SP4はパッチインストーラであり、
パッチ適用時の前提としてInterSafe WebFilter Ver.9.1 SP3がインストールされている必要があります。**

© Alps System Integration Co., Ltd. All rights reserved.

Chapter 2

バージョンアップの流れ

バージョンアップの流れ

事前準備

- 設定ファイルのバックアップを取得します
- ISWF Ver.9.1 SP4のプログラムをサーバ上にコピーしておきます
  (Ver.7.0以前のバージョンを利用している場合は、事前にVer.8.0にバージョンアップが必要です)

Ver.UP作業

- ISWFのサービスを停止します
- インストールプログラムであるsetup.exe(WindowsOS)、setup.sh(LinuxOS)を実行します

※データ量やサーバスペックによっては、コンバートに時間を要する場合がございますのでご注意ください

完了

- ISWFのサービスを起動します

© Alps System Integration Co., Ltd. All rights reserved.

Chapter 3 注意事項(作業前)

3-1.設定情報のバックアップ
3-2.keystoreファイルのバックアップ
3-3.ulimitの確認（LinuxOSのみ）
3-4.tomcatのポート確認
3-5.カスタマイズ規制画面ファイルのバックアップ
3-6.プライマリ・レプリカ構成でのバージョンアップ
3-7.Google Apps機能利用時のバージョンアップ
3-8.カレンダーファイル（cal.inf）のコンバート処理による設定情報の引継ぎ失敗について

3-1.設定情報のバックアップ

バージョンアップの前には必ず設定ファイルフォルダ(ディレクトリ)をバックアップして下さい。
万が一、インストール途中で障害が発生しインストールが失敗した場合においても、設定ファイルを利用することにより旧バージョンの状態へリカバリすることができます。

●バックアップする設定情報

Windows：<ISWFインストールフォルダ>¥conf
Linux / Solaris：<ISWFインストールディレクトリ>/conf

※バックアップはISWFの全サービスを停止した上で行って下さい。
　もしくは、ISWFの管理画面を操作していないことを確認した上で行ってください。

●補足情報
デフォルトのインストールフォルダ(ディレクトリ)は以下となります。
Windows：C:¥InterSafe
Linux：/usr/local/intersafe
Solaris：/opt/intersafe

© Alps System Integration Co., Ltd. All rights reserved.

3-2.keystoreファイルのバックアップ

管理画面をHTTPSで使用している場合は予め以下のバックアップを取得してください。

●バックアップする設定情報

Windows：<ISWFインストールフォルダ>¥tomca配下のファイル
Linux / Solaris：<ISWFインストールディレクトリ>/tomcat配下のファイル

バージョンアップ後、同じkeystoreファイルを利用する場合は、keystoreのバックアップを取得し、事前のインストールフォルダ(ディレクトリ)以外に退避してください。

※バージョンアップ後、管理画面をHTTPSで利用する場合は、管理者マニュアルの「HTTPSプロトコルで管理画面を使用する」を参照して、再設定を行ってください。

●補足情報
デフォルトのインストールフォルダ(ディレクトリ)は以下となります。
Windows：C:¥InterSafe
Linux：/usr/local/intersafe
Solaris：/opt/intersafe

© Alps System Integration Co., Ltd. All rights reserved.

3-3.ulimitの確認(LinuxOSのみ)

Ver.8.5以降で、ファイルディスクリプタの上限を設定ファイル(system.inf)で設定できるようになりました。

<インストールディレクトリ>/conf/sys/system.inf内
*[STSTEM_GLOBAL]*セクション
LIMIT_NOFILE=32768

※初期状態では非表示のため、変更する場合は、キーを 追記して値を設定します。
変更後は、フィルタリングサービスの再起動が必要です。

この設定により、バージョンアップ後はファイルディスクリプタの上限に32768が適用されます。
バージョンアップ前に、ISWFの起動シェル内にulimitコマンドを記述してファイルディスクリプタの上限を変更されていたお客様は、上記の設定を変更してください。Ver.8.0までのファイルディスクリプタの上限の変更方法は以下のFAQをご参考ください。

FAQ No.1584「ファイルディスクリプタが不足し、Webアクセス不能となってしまう。」
https://alsifaq.dga.jp/faq_detail.html?id=1584&category=&page=1

●補足情報
例えば、Ver.8.0にてファイルディスクリプタの上限を40000に設定している場合、Ver.9.1 SP3へバージョンアップすると、ファイルディスクリプタが32768に減少する結果になるため、LIMIT_NOFILEの設定を40000以上に変更します。

© Alps System Integration Co., Ltd. All rights reserved.

3-4.tomcatのポート確認

環境によっては、ISWFの動作に必要なTomcatのポート番号8005が同居するアプリケーションとバッティングすることを回避するため、Tomcatのポート番号を変更されている場合がございます。
仮に変更していた場合、ISWFのバージョンアップにより、設定が初期化されますので、バージョンアップ後は、必要に応じて再度変更をしてください。設定手順は以下のFAQをご参考ください。

FAQ No.2522「Tomcatが内部で使用するポート番号を変更したい」
https://alsifaq.dga.jp/faq_detail.html?id=2522&category=&page=1

© Alps System Integration Co., Ltd. All rights reserved.

3-5.カスタマイズ規制画面ファイルのバックアップ

カスタマイズした規制画面htmlファイルは、バージョンアップした際に、自動的にバックアップ対象として保存されますが、念のため、バージョンアップ前にバックアップを取得してください。

※規制画面のカスタマイズはサポート対象外となります。
※Ver.8.0以降からバージョンアップする場合、規制画面htmlファイルは引き継がれますので、バージョンアップ後のカスタマイズは不要です。

●規制画面のHTMLファイル(デフォルト)

Windows：<インストールフォルダ>¥conf¥block¥nfblock.htm
Linux / Solaris：<インストールディレクトリ>/conf/block/nfblock.htm

●自動バックアップデータ(バージョンアップ後に生成されます)
Windows：<インストールフォルダ>¥backup¥conf_vxx_＜バージョンアップ日付>
Linux / Solaris：<インストールディレクトリ>/backup/conf_vxx_＜バージョンアップ日付>

●補足情報
デフォルトのインストールフォルダ(ディレクトリ)は以下となります。
Windows：C:¥InterSafe
Linux：/usr/local/intersafe
Solaris：/opt/intersafe

© Alps System Integration Co., Ltd. All rights reserved.

3-6.プライマリ・レプリカ構成でのバージョンアップ

プライマリ・レプリカ構成でバージョンアップを行う場合は、それぞれのサーバでバージョンアップを行ってください。
バージョンアップ作業前に管理画面でレプリカサーバを削除する必要はありません。

※異なるバージョンのプライマリサーバおよびレプリカサーバが混在していると、同期に失敗する場合があります。
　プライマリサーバとすべてのレプリカサーバが同一バージョンになるまでは、管理画面での設定変更をしないでください。

© Alps System Integration Co., Ltd. All rights reserved.

3-7.Google Apps機能利用時のバージョンアップ

Ver.9.1以前のバージョンで、「Google Apps 機能設定」を利用している環境から、Ver.9.1 SP3にバージョンアップすると既存の設定が引き継がれず、クリアインストールとなる事象が報告されています。

Ver.9.1以前のバージョンからバージョンアップする場合は、一旦Ver.9.1 SP2へバージョンアップ後、Ver.9.1 SP3へバージョンアップしたのちにVer.9.1 SP4を適用してください。

■OKパターン例
Ver.8.5 SP2 Build1003 → Ver.9.1 SP2 Build1501 → Ver.9.1 SP3 Build1601
Ver9.0 Build1101 → Ver.9.1 SP2 Build1501 → Ver.9.1 SP3 Build1601

■NGパターン例
Ver.8.5 SP2 Build1003 → Ver.9.1 SP3 Build1601
Ver9.0 Build1101 → Ver.9.1 SP3 Build1601

© Alps System Integration Co., Ltd. All rights reserved.

3-11.カレンダーファイル(cal.inf)のコンバート処理による設定情報の引継ぎ失敗について

カレンダーファイル(cal.inf)に空行、3文字以内の行、または先頭4文字を数値に変換できない行が含まれる状態でバージョンアップを実施した場合、設定情報のコンバート処理が正常に完了せず旧バージョンで登録したライセンス情報、作成したグループ・ユーザー情報、およびレプリカサーバ情報が削除されます。また、本事象が発生した状態でプライマリサーバをアンインストールした場合、OSパラメータ最適化を有効にしていると「システムを再起動する」または「後でシステムを再起動する」の選択肢が表示されなくなる場合があります。

<発生条件>
以下のすべての条件を満たす場合に発生します。
1.InterSafe WebFilterをProxy版またはICAP版問わず利用している。
2.cal.infに、「空行」「3文字以内の行」「先頭4文字に数値として解釈できない文字が含まれる行」に該当する行が含まれている。
3.以下のバージョンアップを実施する。

バージョンアップ前のバージョン	バージョンアップ後のバージョン
Ver9.1以前	Ver9.1SP1 / Ver9.1SP2 / Ver9.1SP3 / Ver9.1SP4
Ver9.1 SP1	Ver9.1SP2 / Ver9.1SP3 / Ver9.1SP4
Ver9.1 SP2	Ver9.1SP3 / Ver9.1SP4

<回避策>
バージョンアップ前にcal.infの内容をご確認いただけますようお願いいたします。
空行、3文字以内の行、先頭4文字のある行が含まれている場合は、該当行を削除または修正してください。

詳細につきましては、以下のFAQをご確認ください。
https://alsifaq.dga.jp/faq_detail.html?page=1&id=7391

© Alps System Integration Co., Ltd. All rights reserved.

Chapter 4

バージョンアップ後の作業

4-1.データベースのダウンロード

4-2.最大ヒープサイズの設定

4-3.その他の作業

4-1.データベースのダウンロード

Ver.8.0以降からVer.9.1 SP4へバージョンアップした場合は、バージョンアップ前のデータベースが継承されるため、バージョンアップ直後もフィルタリングが可能です。(管理画面上はデータベース情報の「バージョン」「DB日付」はすべて「0」になりますが、データベースは引き継がれています。)
Ver.8.5以降で追加されたカテゴリ分のURLについては、次回URLデータベースダウンロード時に反映されます。
データベース情報の「バージョン」「DB日付」がすべて「0」になっている点も、次回URLデータベースダウンロード時に最新情報に変更されます。

手動でデータベースをダウンロードする手順は、以下のFAQをご参照ください。

FAQ No.5344「手動でURLデータベースを更新する方法」
https://alsifaq.dga.jp/faq_detail.html?id=5344&category=&page=1

※必ず、ISWFの全てのサービス（プロセス）が起動した状態でダウンロードを実施してください。

サービスの起動確認の方法は以下のFAQをご参照ください。

FAQ No.4091「Ver.9.1/9.0/8.xで起動するプロセスについて教えてください」
https://alsifaq.dga.jp/faq_detail.html?id=4091&category=&page=1

また、Ver.9.1 SP4ではデータベースダウンロード先URLが以下となっておりますので、必要に応じて
以下通信先へアクセスが可能かご確認をお願いいたします。
データベースダウンロードURL：[https://intersafe.netstar.jp/db91sp4]

© Alps System Integration Co., Ltd. All rights reserved.

4-2.最大ヒープサイズの設定

最大ヒープサイズの初期設定が 256Mbyte に変更になります。
Ver.8.5以降ではデータベースの格納領域にJavaヒープを利用しないため、最大ヒープサイズを256Mbyteに抑えてあります。

Ver.8.0～Ver.8.5 Build0860まではヒープサイズは128Mbyteで設定されています。これらのバージョンからバージョンアップした場合は、128Mbyteが引き継がれます。

Proxy版でヒープサイズ 128Mbyteは600プロセス数程度を想定した数値となっておりますので、プロセス数の総和を600以上に増加している場合は、ヒープサイズを増加してください。(1000プロセスの場合ヒープサイズは256MBを目安としてください。)
ICAP版の場合は、ヒープサイズについては256Mbyteから変更する必要はほとんどありません。

© Alps System Integration Co., Ltd. All rights reserved.

4-3.その他の作業

Chapter3 の下記項目に該当する場合は、スライドの内容に沿って作業を行ってください。

3-2.keystoreファイルのバックアップ
3-3.ulimitの確認(LinuxOSのみ)
3-4.tomcatのポート確認

また、Chapter5 の注意事項もあわせて確認してください。

© Alps System Integration Co., Ltd. All rights reserved.

Chapter 5 注意事項(作業後)

5-1.HTTPS規制画面の動作変更
5-2.利用ポートの確認
5-3.認証局設定について
5-4.HTTPSタイムアウト値について
5-5.Ver.8.5 SP2以降のセキュリティ強化について
5-6.リクエスト別認証設定の削除
5-7.例外サービス設定の反映
5-8.ログファイル名の変更
5-9.サーバの呼称について
5-10.eMudhraの中間CA証明書対応における
ブラックリスト再設定のお願い

5-1.HTTPS規制画面の動作変更

Ver.8.0～Ver.8.5 Build0860までは、ICAP版でIE8以降を使用してHTTPSの規制サイトを表示した場合、規制画面は表示されますが、規制理由・一時解除ボタンは表示されません。
この仕様はVer.8.5 SP1 Build0870以降で規制画面に規制理由・一時解除ボタンが表示されるように変更されました。

ISWFのバージョン	規制理由・一時解除ボタン表示
8.0	不可
8.5 Build0860まで	不可
8.5 SP1 Build0870以降	可能

© Alps System Integration Co., Ltd. All rights reserved.

5-2.利用ポートの確認

ISWFでは以下のポートを利用します。
ファイアウォール等を利用している場合、以下のポートが利用できるようにしてください。

ポート名	ポート番号	ポート名	ポート番号
管理サービス用ポート(全製品共通)	41212	ICAP ポート(全製品共通)※	1344
データ同期用ポート(全製品共通)	41213	Webコンテンツキャッシュ制御待受ポート (Ver.8.5 SP2以降 Proxy版のみ)	41211
フィルタリングサービス制御用ポート (全製品共通)	41214	HTTP規制画面出力用ポート(ICAP版のみ)	21128
	41215	HTTPS規制画面出力用ポート(ICAP版のみ)	443
	41216	ARMS連携機能のコールバック待受ポート (Ver.8.5 SP2以降)	8319
キャッシュデータ制御用ポート(全製品共通)	5963	アクセスログエージェントポート(Ver.9.0以降)	41210
管理画面用ポート(全製品共通)	2319	集計データベースサービスポート(Ver.9.0以降のプライマリのみ)	41209
HTTP ポート(Proxy版のみ)	8080	管理画面停止用ポート(全製品共通)	8005
HTTPS ポート(Proxy版のみ)	8443		
FTP OVER HTTP ポート(Proxy版のみ)	8021		

※Ver.8.0以降では、Proxy版、ICAP版ともに、フィルタリング処理を行うために、内部的にポート1344を使用する仕様に変更しております。

© Alps System Integration Co., Ltd. All rights reserved.

Proxy版

Ver.8.5 SP1 修正パッチ(Build0881)以降では、HTTPS規制画面表示や、HTTPS規制設定 サーバデコード方式使用時の認証局証明書を動的に作成することが可能です。
具体的な手順については、 認証局設定の「Proxy版利用マニュアル」をご参照ください。
※Ver.8.5 SP2以降を新規インストールしている場合は、認証局証明書を独自に作成する必要はありません。

ICAP版

Ver.8.5 SP1(Build0870)以降では、HTTPS規制画面表示時の仕様が変更(※)になった影響で、HTTPS規制画面表示時にブラウザのSSL警告が表示されるようになっています。
Ver.8.5 SP1 修正パッチ(Build0881)以降では、HTTPS規制画面表示時にブラウザのSSL警告画面を非表示にすることが可能です。
具体的な手順については、 認証局設定の「ICAP版利用マニュアル」をご参照ください。
(※)HTTPS規制画面表示時に規制理由を表示するように仕様が変更されています。

なお、「ICAP版利用マニュアル」を参照して、独自に証明書ファイルを作成している環境を、Ver.9.1 SP1以降にバージョンアップする場合は、バージョンアップ後、プライマリの証明書ファイル(serverkeys)をレプリカに手動でコピーしてください。

※各マニュアルの入手については、はじめにに記載のサポート窓口までご連絡ください。

© Alps System Integration Co., Ltd. All rights reserved.

5-3.認証局設定について

●補足情報

ISWFのバージョン	利用証明書
Ver.8.0～Ver.8.5	SHA-1
Ver.8.5 SP1	SHA-1 ※Build0881以降であれば、SHA-256に変更可能。
Ver8.5 SP2以降	新規インストールの場合は、SHA-256 バージョンアップの場合は過去バージョンでSHA-1を利用しているとSHA-1のまま ※SHA-256に変更可能。

9.1 SP4へバージョンアップを行うと、以前のバージョンの証明書リストを引き継がずに初期ファイルで上書きされます。
信頼済み証明書(認証局証明書)を証明書リストへ追加されている場合は、バージョンアップ後に証明書リストへ追加してください。
※管理画面[サーバ管理]-[信頼済み証明書設定]で信頼済み証明書の追加/表示/削除ができます。

© Alps System Integration Co., Ltd. All rights reserved.

5-4.HTTPSタイムアウト値について

Ver.8.5 SP1以降でHTTPS通信タイムアウト値が新規に追加されました。(Proxy版のみ)
HTTPSデコードが無効の状態で、HTTPSリクエスト転送時に参照されるタイムアウト値が変更になります。

	Ver.8.5まで	Ver.8.5 SP1以降
HTTPSデコード無効時	サーバ接続タイムアウト値 (初期値60秒)	HTTPS通信タイムアウト値 (初期値90秒)
HTTPSデコード有効時	サーバ接続タイムアウト値 (初期値60秒)	サーバ接続タイムアウト値 (初期値60秒)

各タイムアウト値は、管理画面の[サーバ管理]-[サーバ設定]-[フィルタリングサービス情通設定]より設定します。

© Alps System Integration Co., Ltd. All rights reserved.

5-5.Ver.8.5 SP2以降のセキュリティ強化について

Ver.8.5 SP2 Proxy版では、HTTPS通信のセキュリティ強化機能がデフォルトで有効となっており、その影響でバージョンアップ後、任意のHTTPSサイトと通信できなくなる場合があります。

バージョンアップ前と同じ挙動としたい場合は、以下のFAQをご参照いただき設定変更を実施してください。

FAQ No.4967「(WebFilter ver8.5 SP2以降)セキュリティ機能について」
https://alsifaq.dga.jp/faq_detail.html?id=4967&category=&page=1

© Alps System Integration Co., Ltd. All rights reserved.

5-6.リクエスト別認証設定の削除

[リクエスト別認証設定] - [宛先ホスト認証] に何も記載せず運用している環境から、設定を引き継いだバージョンアップ(アップデートインストール)を行うと、デフォルトの認証除外設定が追加されます。
設定が不要の場合は、バージョンアップ後に手動で削除を行ってください。

FAQ No.5139「バージョンアップ時のリクエスト別認証設定の引き継ぎについて」
https://alsifaq.dga.jp/faq_detail.html?id=5139&category=&page=1

© Alps System Integration Co., Ltd. All rights reserved.

5-7.例外サービス設定の反映

例外サービスを利用している環境から、Ver9.1 SP2以降へ設定を引き継いだバージョンアップ(アップデートインストール)を行うと、
例外サービスルールが適用されていない状態になります。
以下のコマンドを実行して、例外サービスを有効にしてください。

●WindowsOSの場合

<ISWFインストールフォルダ>¥bin¥amsdata -reload

●LinuxOSの場合

/<ISWFインストールディレクトリ>/bin/amsdata –reload

●補足情報
デフォルトのインストールフォルダ(ディレクトリ)は以下となります。
Windows：C:¥InterSafe
Linux：/usr/local/intersafe

© Alps System Integration Co., Ltd. All rights reserved.

5-8.ログファイル名の変更

以下のログのログファイル名が変更されました。

InterSafe_cache.log → InterSafe_laptor.log

© Alps System Integration Co., Ltd. All rights reserved.

5-9.サーバの呼称について

Ver9.1 SP3以降ではサーバの呼称が変更されました。

マスタサーバ → プライマリサーバ
スレーブサーバ → レプリカサーバ

© Alps System Integration Co., Ltd. All rights reserved.

5-10. eMudhraの中間CA証明書対応におけるブラックリスト再設定

バージョンアップを実施した場合、旧バージョンで登録されたブラックリスト設定は新バージョンへ引き継がれません。
eMudhra関連証明書への対応としてブラックリストの有効化対応を実施されたお客様におかれましては、バージョンアップ後にブラックリスト設定の再設定をお願いいたします。

＜対象となるお客様＞
eMudhra関連証明書のブラックリスト有効化対応を実施済みのお客様が対象となります。
詳細につきましては、後述のFAQ「1. 対象のお客様」をご確認ください。

＜対応内容
後述のFAQに添付されているブラックリストファイル(「2_blacklist_win.zip」または「2_blacklist_linux.zip」)をダウンロードのうえ、「■ブラックリストの有効化手順」に沿ってファイルの差し替えを実施してください。

※注意点
作業前にご利用中のInterSafe WebFilterのバージョンおよびOS(Windows版／Linux版)をご確認ください。
バージョンおよびOSによって差し替え対象となるファイルが異なりますので、該当する添付ファイルをご確認のうえ、ご対応をお願いいたします。

＜関連FAQ＞
[ISWF] eMudhraの中間CA証明書に関する対応について
https://alsifaq.dga.jp/faq_detail.html?page=1&id=7437

© Alps System Integration Co., Ltd. All rights reserved.

Chapter 6 新機能について

6-1.AIカテゴリの追加

6-1.AIカテゴリの追加

生成AI関連についてのカテゴリ「AI」が新設されました。

変更点は以下の通りです。

・生成AIは旧バージョンでは「ウェブアプリケーション」と判定されていましたが、SP4より「ITサービス-AI」カテゴリで判定されます。

・AIカテゴリの規制/許可ルールは、移行時は「ウェブアプリケーション」の設定と同等の設定となります。

・新規構築時は『セキュリティ重視』ルールではAIカテゴリは「規制」され、それ以外では「許可」となります。

・URLデータベースのカテゴリ数が148から149に変更になります。

© Alps System Integration Co., Ltd. All rights reserved.

Chapter 7 ログレポートツール

ログレポートツール

ISWF Ver.9.1 SP4の対応レポートツールは以下の通りです。

InterSafe LogDirector 4.0.13
LogLyzer Ver.8.5

●InterSafe LogDirector(LD)をご利用の場合
・LD Ver.3.0以前をご利用のお客様は、LD Ver.4.0へバージョンアップが必要です。
アップデートインストーラにてバージョンアップを行ってください。
・LD Ver.3.0からVer.4.0への変更は製品の再インストールになります。
※アンインストール前にログデータをエクスポートいただくことで、 LD Ver.4.0へインポートが可能です。
詳細はLD Ver.4.0の管理者マニュアルをご参照ください。
・LD Ver.4.0～からVer.4.0.13へはアップデータをご利用ください。
※ISWF Ver.8.5以降のICAP連携ログはLD Ver.4.0以降で取り込みが可能です。

●LogLyzer(LL)をご利用のお客様
LL Ver.8.0以前をご利用のお客様は、LL Ver.8.5へバージョンアップが必要です。
現在のLLをアンインストール後、LL Ver.8.5をインストールしてください。
※アンインストール前にログデータをエクスポートいただくことで、 LL Ver.8.5へインポートが可能です。
詳細はLL Ver.8.5の管理者マニュアルをご覧ください。
※LogLyzerは2021年6月30(水)に提供を終了しました。

© Alps System Integration Co., Ltd. All rights reserved.

もっと豊かな情報未来へ
アルシー・ソリューション

www.alsi.co.jp

© Alps System Integration Co., Ltd. All rights reserved.